

研究・調査報告書

| | |
|---|----------------------|
| 報告書番号 | 担当 |
| 192 | 滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門 |
| 題名 (原題/訳) | |
| Cognitive functioning in late life: the impact of moderate alcohol consumption. 適量飲酒が高齢期認知機能に与える影響 | |
| 執筆者 | |
| McGuire LC, Ajani UA, Ford ES. | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) | |
| Ann Epidemiol. 2007 Feb;17(2):93-9. | |
| キーワード | |
| 加齢、飲酒、認知機能、縦断研究 | |
| 要 旨 | |
| <p>目的： 適量飲酒が認知機能に及ぼす影響を男女別に4年間かけて検討した。</p> <p>方法： 研究参加者は認知障害のない70歳以上の米国人2716人(平均年齢76.02歳)で加齢に関する第2縦断研究(1994 to 2000)から選んだ。多変量ロジスティック解析を用いて4年間の平均飲酒量(非飲酒、1飲酒単位/日以下、>1飲酒単位/日)が電話によるインタビューによって評価した認知機能に及ぼす影響を検討した。</p> <p>結果： 適量飲酒が認知機能に及ぼす影響に男女差を認めた($p < 0.01$)。女性においては非飲酒者に比べて1日1飲酒単位(1飲酒単位はアルコール約15gに相当)かそれ以下の飲酒は認知機能低下を予防した(調整オッズ比 [AOR], 0.67; 95%信頼区間 [CI], 0.55-0.83)が、男性ではその効果が認められなかった(AOR, 0.96; 95%CI, 0.69-1.34)。</p> <p>結論： 認知機能正常の女性において1日1飲酒単位かそれ以下の飲酒は認知機能低下を予防した。男性では同効果は認められなかった。飲酒に伴うリスクもあるので適量飲酒を女性に勧めるには注意が必要である。</p> | |